

CR (絶滅危惧 I A 類)

カメムシ目 コオイムシ科

カテゴリー判定基準：A-2; B-2, 3

タイワンタガメ

Lethocerus indicus (Lepelletier & Serville, 1775)

旧レッドリストカテゴリー		
1991	2000	2007
—	DD	DD

日本最大の水生半翅類で、体長は60～80mm。国内では八重山諸島の与那国島だけに分布する。1957年に記録され、1970年代後半に1個体が確認されて以来、一切確認されていない。生息環境の悪化・激減により、絶滅が懸念されている。

A giant water bug, *Lethocerus indicus* is known only from Yonaguni Island, the westernmost island of Japan. Since the first record in 1957, a few specimens have been collected and recognized. After the last record in the 1970s, due to the destruction of the aquatic environment, there have been no further reports on its inhabitation on the island.

基礎情報

■**形態** 超大型で、体長は60～80mm。黄褐色の体で、細長い前胸背には2本の暗色縦帯がある。球形の眼、短い前脚、さらに幅広く扁平な後脚などによって、タガメと区別される。

■**分布域** 東南アジアに広く分布する種で、日本では与那国島だけから記録される。タガメは日本全域からインドにかけて分布し、与那国島ではこれら2種が生息する。

■**生息環境** 比較的広い池沼と考えられるが、与那国島での詳しい生息場所は不明。

■**生活史** 出現期や年間の世代数等、与那国島での状況は不明。

現在の生息状況

■**分布域の現況** 1970年代の記録以降は、確認されていない。埋め立てによる池沼・湿地の激減により、生息可能な範囲が極めて狭くなっていると考えられる。

■**生息地の現況** 水域環境の消失や悪化が著しい。

存続を脅かす要因

池沼等の陸水域環境の悪化および消失 (12、15-1、15-2)。圃場整備や農薬使用による水質汚染も大きな原因を考えられる (31)。

保護対策の現状

とくになし。

特記事項

与那国島はタイワンタガメの分布北限である。東隣の西表島にはタガメだけが分布するが、与那国島にはこれら2種がともに分布する。両種の分布状況やすみ分けなど、詳細に調査すべき重要課題である。また、同島産は体サイズがやや小さく、独特な地理変異の可能性も考えられる。本種の保護において、陸水域の保全が考えられるが、既に多くは消失している。

参考文献

林正美・宮本正一, 2005. 半翅目 Hemiptera. 川合禎次・谷田一三 (編), 日本産水生昆虫, pp. 291-378. 東海大学出版会, 秦野.
林正美・佐々木健志, 2001. 与那国島からタガメを確認. *Ros-tria*, (50): 54-55.

執筆: 林 正美 (埼玉大学)